

# 音調整のスペシャリスト 弦楽器工房・ヒポポバイオリン

県営球場のほど近く、金倉町にひっそりたたずむヒポポバイオリン。実家の納屋に小さな看板をつるして、弦楽器の製作や修理・調整などをする工房です。

## 香川でたった一軒の弦楽器工房

工房の主は直井淳一郎さん。5年前に開業しました。香川でバイオリンをやっている人は意外と多いとか。小さい頃から習っている人、大人から子どもからプロまで、そして学生さんや学校の先生もここを訪れています。依頼の多くが弓の毛の交換と楽器本体の音調整だそうです。

## 可能な限りいい音に

世の中には、製作メインの



職人さんと、直井さんのように修理・調整をメインにしている職人さんに分かれます。

「預かって調整するときは場合によっては改善するまで100回でも200回でもバラして調整してを繰り返します。この楽器はちよつとダメかなと思っているとスゴイいい音になったりするんですよ」

弦楽器は売られている「基本の状態」から買った人がより自分の好きな音に変えていくことが醍醐味。しかし一般の演奏者は長年使い続けている楽器の調子が悪

いことにはなかなか気づけないようです。「自分の演奏技術が悪いからこういう音しか出ないと思ひ込んでいる人が本当に多いです」。

弓の毛の交換を頼まれた時に、毛の交換よりむしろ楽器の調整が必要というケースが多くあるそうです。調整をすると「すごく良くなったよ、ありがとう」と喜ばれるそう。

直井さんは、「バイオリンは人間みたいなものです」と言います。楽器一つひとつに個性があつて、音調整に関しては共通する答えがない。だから一つずつ

つ試していくしか正解に近づく道はないのです、と。

## 「木が好き」だと気づいたきっかけは学校ではなく

そんな直井さんですが、バイオリンと出会ったのはなんと成人してからだそうです。現在43歳で、「バイオリンを弾くのはドレミファソ（音階）のみです」と。そんな直井さんがどうしてバイオリンに魅せられたのか……。とにかく経歴がユニークです。

中学卒業後、高専に入学しますが、4年生の夏頃、自分は電



ニス塗り中の製作楽器



弓の毛の交換は消耗品なので必要だが、1年など期間を決めて不必要に交換する人が多い。練習の仕方によってそれぞれ期間は変わってくる



魂柱を調整する道具

魂柱と裏板を支えている柱を魂柱という。音の調整はほぼ魂柱と駒できる

気系に全く興味がないことに気づきます。そんな時、直井さんは家のリフォームで来ていた大工さんの仕事を見て、「これは楽しそうだ！」と衝撃を受けます。そして、高専の中退を決心し思い切って大工さんに弟子入りをお願いすることに。約2年間大工さんの元で勤めた後、木の専門である山一木材に入社。7年間ほどの勤務になります。木に触れる仕事を続ける中で木が好きなのを確信します。

## 大好きな木で大好きな音色のバイオリンを作る世界へ

もともと音楽が好きで、クラシックに興味を持っていた直井さん。通勤途中、郡家町で見つけたバイオリン教室でおよそ2年間バイオリンを習いました。

そして、ある日演奏しながら「あれ？バイオリンって木じゃないか」と、ふと気づいてしまいます。どうしてもバイオリンを作ってみたくなった直井さんは、28歳から東京の専門学校へ行くことに。卒業後は親方の下で2年間見習いをしました。

その後、弦楽器の卸問屋に就職し5年間、修理・調整の実務経験を積んでから念願の香川で独立したのが5年前。

ようやくたどり着いたバイオリンの調整という世界は、想像以上に奥が深く楽しいそうです。「大人の方はもちろん、意外と子どもも敏感で、いい音になると楽しんで練習するようにになりました、と言ってくれるのが嬉しいです。分かります。楽器って、良い音がしないとやってらんないもんね(笑)」

他にも、学校の先生やプロの人もここを訪れ、「来ては、演奏家目線の普段聞けないいろんな話をしてくれて、とても勉強になります」と言います。

直井さんは現在、たくさんの方に頼りにされています。ゆくゆくはバイオリンの製作にもっと力を入れて、製作と調整と半々で弦楽器に携わっていきたいそうです。

「やっぱり木が好きで、好きな音楽の仕事ができているというのは幸せです」と直井さんは微笑みます。

弦楽器工房・ヒポポバイオリン

住/丸亀市金倉町 778-3  
TEL / 0877-89-3347  
営/8:00~17:00(不定休)

